

『風船』

作詞 J'Soul (浅羽一)

雲一つなく晴れた青を見上げ 未来を語っていた君を
今でも僕は覚えている
夢ばかりを並べた店のガラスを 眩しそうに見ていた君が
今でも僕の^{まぶた} 瞼で笑う
どの道が遠回りで どの道が近道で
この道が何処に続くのかさえ 分からなかった僕らだったけど
確かに僕らは一緒に笑い合っていた
君の背中を押したのは僕じゃない 君が飛べたのは僕のカじゃない
君に翼を付けたのは僕じゃない 僕はただ手を離しただけで
君の風船は大きな希望で膨らんで 今にも空に飛んでいきそうで
臆病な僕は風船の紐に絡めた指からそっと力を抜いたんだ
そして君は澄んだ空へ 雲よりも高く青よりも深く…
君の色が晴れた世界を飾っていった

淋しさを堪^{こら}えた涙を溜^ためて 肩を震わせて立つ君に
今でも僕は勇気を歌う
月を照らすほど輝く世界で 迷わず前に向かう君は
今でも僕の愛しい人で
何をすればいいのか 何をすべきなのか
全てが手探りのままの日々を 進み続けた僕らだったけど
それでも僕らは片手を繋ぎ合っていた

■繰り返し

晴れた日に一人で緑の上から空を眺めたら
優しい風に乗りいつか見た風船が空を流れてた
赤・青・黄色…虹よりも沢山の綺麗な色が空を飾って
僕の風船はまだ空に浮かぶほど大きくはないけど

■繰り返し